

好評！：  
「大学トップに聞く」  
シリーズ

次世代TOEFL対応教材  
Criterion/LanguEdge  
キャンペーン始まる！

好評連載：  
言葉の玉手箱

TOEFL受験者  
インタビュー  
初めてのTOEFL

TOEFL  
研究セミナー  
スケジュール

必見！  
耳より情報

HOME

## Welcome to TOEFL Mail Magazine!



桜の咲く中、新しい気持ちで  
新学期を迎えられたことと思  
います。

入学式、入社式を終え、心も  
新たに真新しいスーツととも  
にスタートですね。


さて、今月からのTOEFLメー  
ルマガジンはそんな皆さん同  
様、新しいキャンペーン情報  
満載でスタートします。当事  
業部が今月から行っている**次  
世代TOEFL対応の教育者向け  
教材キャンペーン**をお見逃し  
なく!! ついに画期的教材の日  
本上陸です。

大好評の特集「大学トップに  
聞く」では、国立大学のトッ  
プバッターとして、大自然と  
充実した教育環境を提供する  
**北海道大学総長 中村睦男**  
先生にお話を伺いました。

人気の高い「TOEFL受験者イ  
ンタビュー」は「**初めての  
TOEFL**」として、初めて  
TOEFLを受験された方々にお  
話を伺いました。

桜の花のあとには青葉がぐん  
ぐん育ちます!! 青葉のよう  
に、目標へ向かってぐんぐん  
進みましょう

国際教育交換協議会(CIEE)  
日本代表部 TOEFL事業部

 メールアドレスが変  
更になった方は、こ  
ちらのアイコンをク  
リックのうえ、ご連絡下さい  
ますようお願いいたします。



メールマガジンに登録する

### 好評！：「大学トップに聞く」シリーズ

#### 北海道大学総長 中村 睦男氏 インタビュー

本シリーズでは特色ある大学のトップの方に、大局的な視点から大学の運営方針、指導方針、授業の改善などについてインタビューさせていただいた内容をご紹介します。

今回は、国立大学のトップバッターとして北海道大学を取り上げました。国立大学の独立法人化にともなう今後の大学構想や諸問題と改革、および私立大学との相違点などについて伺いました。また、中村総長ご自身が国際化を推進されておられることから、大学の国際化に対する取り組みについても語っていただきました。

### 次世代TOEFL®対応教材Criterion/LanguEdgeキャンペーン始まる！

TOEFLテスト実施団体であるアメリカのETS ( Educational Testing Service ) は、新時代における社会のニーズに対応したReading・Listening・Writing・Speakingの4技能を組み合わせた英語運用能力をはかる『次世代TOEFL』を2005年9月より始動いたします。

これにともない、新方式テストに対応した教育支援ツール【Criterion】と【LanguEdge™】を開発し、日本で販売されることになりました。また、これらのプロダクトのデモを体験していただき、皆様にご理解を深めていただくためのデモ体験セッション「Come&Touch」を、東京その他各地で実施しております。この機会をぜひご利用下さい。

### 好評連載：言葉の玉手箱

#### ETS公認コンサルタント 川手-M 恩 先生による言葉の新発見

英語に限らず外国語を学習していると、言葉の世界の奥深さに気付かされます。古来の日本人は言霊(ことだま)と評して、言葉には霊が宿り、見えざる力を働かすのだと考えました。使い慣れた短いフレーズの中にもコミュニケーションを左右するほどの力があるのです。

ご好評頂いている連載「言葉の玉手箱」では、ETS公認コンサルタントの川手 ミyajieフスカ 恩先生が、異文化間コミュニケーションにおける言葉の使い方の重要性に焦点をあて、興味深く解説してまいります。言葉の世界の面白さをお楽しみください。

## TOEFL®受験者インタビュー：「初めてのTOEFL 学生編」

今までの受験者インタビューは、TOEFLに何度かチャレンジされている方にインタビューしてきましたが、今回は新学期ということもあり、初めてTOEFLを受験する方にスポットをあてて4名にインタビューしてみました。高校生、大学生、社会人、管理職の方とそれぞれ立場も様々で、皆さんそれぞれの目標に向かって一生懸命に頑張っている様子でした。また受験した感想もそれぞれで、この4名が語ってくださったことが、是非ともこれから初めて受験されようと思われる方のご参考になればと思っております。今回はうち2名を取り上げてお伝えします。残りの2名の方へのインタビューは次号掲載予定です。

## TOEFL®研究セミナースケジュール(ご案内のセミナーは既に終了しています)

昨年12月に好評を博したTOEFL研究セミナーを京都・福岡でも開催することになりました。このセミナーでは、2000年から2004年にかけてのTOEFLの動向に沿って21世紀における英語教育のあり方を考えます。特にアカデミック・ライティングや英語伝達能力育成に向けての効果的な学習方法とその指導方法を探ってみます。また、コミュニケーションな英語能力を正しく測定しようという試みによって2004年度から始まる予定の新世代TOEFLに向けての効果的な学習指導方法等もETSの開発したプログラムとともにご紹介します。この機会をぜひお見逃しなく！

## 必見！耳より情報(ご案内のセミナーは既に終了しています) セミナースケジュール発表

当事業部では、国際標準の英語能力評価試験であるTOEFLの日本事務局として、コンピュータ版TOEFL (TOEFL-CBT) について分かりやすくご説明するセミナーを無料で開催しております。(東京：毎月1回、関西：隔月1回予定)

ご好評頂いているこのセミナーでは、ETS公認コンサルタントが試験対策とともにコンピュータ版試験の説明をいたします。質疑応答の時間もございますので、不安を取り除いて本番試験に望めます!!セミナーに参加いただいた方にはTOEFL CD-Sampler(定価\$18：サンプル問題67題含む)も無料で配布しております。

世界に飛躍するために今後TOEFLを受験されるご予定の皆様はもちろんのこと、コンピュータ版TOEFLにご興味のある方はどなたでも参加できます。今後の準備に是非お役立て下さい。

北海道大学総長 中村 睦男氏 インタビュー

本シリーズでは特色ある大学のトップの方に、大局的な視点から大学の運営方針、指導方針、授業の改善などについてインタビューさせていただいた内容をご紹介します。

今回は、国立大学のトップバッターとして北海道大学を取り上げました。国立大学の独立法人化にともなう今後の大学構想や諸問題と改革、および私立大学との相違点などについて伺いました。また、中村総長ご自身が国際化を推進されておられることから、大学の国際化に対する取り組みについても語っていただきました。



■ 中村 睦男 (なかむら むつお) 氏 プロフィール ■

【経歴】

昭和14年2月7日生まれ

現職：北海道大学総長

\*\*\*

昭和36年 北海道大学法学部法律学科卒業

昭和38年 北海道大学大学院法学研究科公法専攻修士課程修了

昭和38年 北海道大学法学部助手

昭和45年 北海道大学法学部助教授

昭和48年 法学博士(北海道大学)

昭和49年 北海道大学法学部教授

昭和63年 北海道大学法学部部長・評議員(平成2年12月まで)

平成9年 北海道大学副学長・評議員(平成11年3月まで)

平成12年 北海道大学大学院法学研究科教授

平成13年 北海道大学大学院法学研究科附属高等法政教育センター教授を経て平成13年5月より現職にいたる。

■ 北海道大学の特色

- 北海道大学の改革や、今後、独立法人化するにあたって他の国立大学と比べた場合の北海道大学の特色を教えてくださいませんか？

中村 本来、大学の任務としては、1つに教育、2つ目に研究があり、最近ですと3つ目として**社会連携**があります。これは、産学協同など地域に対する貢献を含めた社会連携で、非常に大きな課題です。**国立大学としての特色**は、3分の1を授業料や病院の収入、残りの3分の2を国費でまかっています。多くは理系が中心で、基礎研究をきちんと行うことが重要な任務だと考えておりますので研究にも教育にもお金がかかっています。私立大学の場合は、授業料収入が全体収入の大部分を占めるので学生を大事にする姿勢を持っていますが、国立大学はお金を国からもらい、しかもある程度研究が中心ということで、ともすると研究に偏りがちで教員の「教育に対する意識」が低いということがあったと思います。これが、今後の法人化で、学生の教育、いい人材をどう育てるかという点が最も大事な任務であると新たに決意することになりました。

北海道大学は、**研究**のみならず**教育**でも今いる研究者のレベルの高さを保つだけでなく、将来の研究者を育てることが大きな任務であり、そのための人材養成をしていきたいと考えています。そのためには、一年生の教養教育の段階からしっかりと人間教育をし、自分の専門分野のみならず色々な分野に対して関心を持ち、世界的視点を持つことができるようにする。結果として、自分の専門をトータルな視点から見ることができます。そのような意味でも教養教育は更に強化していきたいですね。



北海道大学の最大のメリットは、北海道の豊かな自然をバックグラウンドに、キャンパスは札幌という大きな都市の中心部に位置していることです。水産学部は函館にありますがそれ以外は全部同じキャンパス内にあり、様々な専門学部がお互いに接触し切磋琢磨できる環境です。また、研究者にとっても他の分野と協力関係を築くことができるキャンパスと豊かな自然環境を考えると、北海道大学は教育・研究の場として誇るべきポテンシャル（潜在性）が充分にあると思います。その後には重要になるのが、そこへの肉付けです。これは、教育面では1年次から学生・大学院生を育てる全過程を通して、きちんと教育していくことです。特に教養教育は、北海道の自然を利用した教育に力を入れています。北海道大学には「演習林」というものがありますし、水産学部は練習船を保有していますので、それらを利用してフィールドの中で学生を訓練しています。

従来は国立大学の欠点としては、課外教育の大切さを十分認識していなかった点が挙げられると思います。人間教育としては、スポーツや文化活動、ボランティア活動にしろ、学校のカリキュラム以外の課外教育も重視し、今後の課題として学生のスポーツ施設も整備し、スポーツを通して学生の人間の協調性や体力を養いたいと思っています。

#### ■ 北海道大学における教員の評価

- 研究と教育の関係が常に課題になりますが、実際それに直面するのは教員・教師です。北海道大学における教員の評価はどのようになっていますか？

**中村** 北海道大学では、**自己点検評価**を割と早い段階から始めています。1990年代初頭から**教員の教育活動、研究活動と社会貢献**の3つの分野全体に渡って自己点検評価を始めました。しかし、第三者評価が本当の評価ですからそれをどうするかが大きな課題になっています。**研究の評価**については、比較的客観的評価ができます。たとえ論文の数が少なくても内容が非常に高いとか、自然系の分野ですと引用度数がありますから、「研究」については必ずしも評価がむずかしいわけではありません。分野によっては、5年に一度位しか論文が書けない分野もあるかもしれませんが、長期的に評価すればいいのです。

問題は**教育の評価**です。今までは熱心に学生教育をしてもきちんと評価されない事があり、評価されやすい論文・研究センターになってしまう傾向があります。これに関して、以前から北海道大学では**学生による授業評価**をしています。これは学生による匿名の評価方法ですが、それを直接教員に対する評価とはしていません。私も教授時代に学生評価を受けていましたが、やはり一番身近に教育を受けた学生はきちんと評価していると思います。学生が正直に語ってくれるのはコンパ等で飲んだ時ですが、「あの先生はこうだ。この先生はこうだ。」といろんな授業の評価をしてくれます。学生たちは本当に見ているな、公正な評価をしているなと思います。大学教師としては、専門的能力があることも大切ですが、「人間的な魅力」も大切ですね。また、「教育に対する情熱」や「学生が好きか」ということにも学生たちが敏感に反応します。教育評価で確かなのは学生に評価をしてもらうのが一番で、学長や学部長がそれぞれの先生の教育評価をしてしまうとこえって先生方が意識してしまい、評価されるために教育する形になり、むしろ悪い効果になるのではないかと思います。

## 国際化への取り組み

- 国際化と言われ続け様々な取り組みが行われておりますが、大学や学問自体の国際化に関して北海道大学ならではの取り組みなどがございますか？

**中村** 北海道大学ならではの言えば、"Boys Be Ambitious . (少年よ 大志を抱け)"で有名なマサチューセッツ農科大学学長から初任教頭に赴任したウィリアム・S・クラーク先生が、1876年に札幌農学を設立し教学・建学の精神を築いてくれました。当時、まさに国際化を掲げ、2期生の内村鑑三、新渡戸稲造、宮部金吾といった将来の日本を背負っていく人材を輩出しましたが、後に北大が国際化の面で日本の大学の先陣を行っていたかということとまだまだで、これから改めて歴史を再認識しなければならぬと思います。



現在、北海道大学には750名程度の留学生がいますが、大学の規模と比べると必ずしも多くはありませんし、北大生の外国への留学もあまり多くはありません。私立大学ですと国際化に力を入れている所は奨学金を設けたり交流協定を結んでいますが、国立大学は大学自身が奨学金を持っていないので、ここが私たちのこれから取り組むべき一番大きな課題ですね。

海外に行けば日本の文化の特色・文学・芸術について聞かれ、説明できないといけませんが必要は実際に外国に行って体験し、「日本人・日本の文化とは何か」などを考えてみればいいと思います。結果として日本の良さもわかってくるので、外国で色々な経験をすると同時に日本の事を知ることになります。逆に言えば、知る必要性を自覚するので、日本文化の特色や日本に対する愛国心などは自分で経験し、その必要性を感じて学ぶことが一番だと思います。ただ、大学側もそれを支援するシステムを用意しなければならぬということもありますね。

北海道大学では、外国からの留学生に対しては留学生センターが熱心に日本語と日本文化の教育をしていますが、北大生も外国へ行って外国人とのコミュニケーションを肌で学んできて欲しいと思います。異文化経験で苦労すれば、日本に來ている留学生たちの苦労もわかってあげられるでしょう。私は、異文化経験と外国語能力を養うことが大事だと思っています。大学側としては、旅費の援助などで留学する学生の援助をしたいと考えています。以前ですと、学生自身が情報を集めていましたが、最近は大学側が施策を講じないと学生はなかなか反応してくれません。これからは財政援助も含めて、大学側が一定の情報を与えて学生を刺激しながら指導することが必要であるという現状です。今後の国立大学の法人化に向けて、この部分を北海道大学としてもきちんと整備しないと取り残されてしまいますね。これからの社会のグローバル化は当然の話で、どのような職業に就いても何らかの形で外国とのつながりが出てくることなしに21世紀の日本は考えられません。このことは特に強調していきたい部分ですね。

## 社会人教育・生涯教育について

- 社会人や更に勉強したいという人に対しての学習システムに関しては今後どのような形でお考えですか？

**中村** 北海道大学は大学院重点大学と言われており、大学の管理運営組織の重点を大学院にしておりますから、教員の肩書きも、例えば「法学部教授」ではなくて「法学研究科教授」となっています。理工系学生は3分の2以上が大学院へ進学しますので、学部4年と修士2年で専門教育が完結する形になります。そうすると、学部教育はむしろ教養教育や専門基礎にあてはまるので、ひとつの専攻だけではなく将来において幅広く知識のある人材を学部段階で作っておく必要があり、これはとても大事なことだと思っています。

**社会人教育**に関しては、多くの大学院研究科は社会人に対して特別入試という形で広く受け入れるスタンスを取っています。理工系は若いうちに鍛えないとなかなか研究できないということがありますが、文科系は職業経験後に、もう1度ライフワークとして自分の関心分野を研究したい人がいます。実際にそのような人が何人か博士号を取っていますから、我々はそれをもっと入りやすく勉強しやすいシステムにしたいと思っています。

**生涯学習**については、北海道大学では独特の高等教育機能開発総合センターに生涯学習研究部というものがあります。専任の先生が3名いて、大学の高等教育を研究する研究部の一つです。各学部・大学院ではそれぞれ社会人を歓迎するという形で生涯学習を行っています。

- 最後に北海道大学を卒業された方に願うこととメッセージをお願い致します。

北海道大学の学生は一般に学生時代はのんびりしていると言われますが、これはよく言えば、「大器晩成」ですね。北海道の風土で培われたことを発揮して、是非頑張ってもらいたいと思います。学生同士、先生と、また、自然の中で培ったことを、日本国内だけではなくグローバル化した世界で異なった文化を持った人たちとも積極的に接触し、とにかく行動して頑張りたいということにつきま。特に私どもは新渡戸稲造という札幌農学校の2期生が戦前の国際連盟の事務次長という重要な職につき、日本文化を外国に知らせようとされました。彼の書いた「武士道」は世界に日本文化の真髄を知らせるために英文で書かれ、また、日本人に対しては外国のことをきちんと理解するよう多くの書物が書かれています。これが私どもの伝統でもありますので、卒業生にはこの国際社会の中でたくましく生きて欲しいですね。



- 本日はどうもありがとうございました。



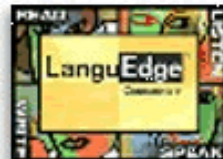

(インタビュー：TOEFL事業部長 高田 幸詩朗/2003年2月21日)



英語教育者向け

日本上陸！ ETS開発 次世代TOEFL®対応教材  
Criterion/LanguEdge™ キャンペーン始まる！

TOEFL®テスト実施団体であるアメリカのETS (Educational Testing Service) は、新時代における社会のニーズに対応したReading・Listening・Writing・Speakingの4技能を組み合わせた英語運用能力をはかる『次世代TOEFL®』を2005年9月より始動いたします。  
これにともない、新方式テストに対応した教育支援ツール【Criterion】と【LanguEdge™】を開発し、日本で販売されることになりました。

Criterion	
	<p>OnlineによるWritingの評価ツールです。 ライティング採点機能 (e-rater®) による即座に結果の出るフィードバックシステムは、学生に限らず、全ての学習者が最も信頼を寄せる学習プログラムです。作文添削・採点・成績統計・文章構成の分析などに使用できる効果的なツールで、クラス分け、宿題提出など教師の優秀な支援ツールであり、生徒はインターネットを利用して、いつでもどこでもマイペースでライティングのトレーニングができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ Criterionの詳細い説明は、<a href="#">こちら</a></li> <li>・ Criterionのデモ版の体験希望される方は、<a href="#">こちら</a></li> </ul> <p>(登録完了後、デモ用IDとパスワードをご連絡いたします。)</p>
	
LanguEdge™	
	<p>次世代TOEFL®にも取り入れられるListening・Reading・Writing・Speakingの4技能を組み合わせた英語運用能力を評価・育成する画期的なソフトです。</p> <p>ReadingとListeningセクションには自動採点機能を搭載し、クラスマネージメントに最適なプロダクトです。2005年から始動の次世代TOEFL®を模擬体験できるこのツールで、生きた英語環境をクラスに導入してみたいかですか？</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ LanguEdge™の詳細い説明は、<a href="#">こちら</a></li> </ul>
	

\*\*\* 両プロダクトデモ体験セッション Come&Touch 開催！ \*\*\*

CIEE (国際教育交換協議会) 日本代表部では日本におけるキャンペーン実施にあたり、実際にデモを体験試用していただき、これらのプロダクトへのご理解を深めていただける **Come&Touchセッション**を**2003年4月16日(水)**より実施しております。

随時ご予約を受け付けておりますので、ご興味のある方は当事業部までお問い合わせ下さい。

【Come&Touchのお申込み・お問い合わせ先】

国際教育交換協議会 (CIEE)TOEFL事業部

電話 :	03-5467-5670 (月～金、9:30～17:30)
Web :	<a href="#">こちら</a> のフォームからお申込み下さい。 ・英語教育関係者対象 (受験生の登録はできませんのでご注意ください。) ・先着順のため、満席の場合はご希望に添えないこともございますのでご了承下さい。

Criterionはオンラインツールなので、ご自宅で、学校で、場所を選ばずデモ体験ができます。

[Back to Top](#) 

英語に限らず外国語を学習していると、言葉の世界の奥深さに気付かされます。古来の日本人は言霊（ことだま）と評して、言葉には霊が宿り、見えざる力を働かすのだと考えました。使い慣れた短いフレーズの中にもコミュニケーションを左右するほどの力があるのです。

ご好評頂いている連載「言葉の玉手箱」では、ETS公認コンサルタントの川手 ミヤジェイエフスカ 恩先生が、異文化間コミュニケーションにおける言葉の使い方の重要性に焦点をあて、興味深く解説してまいります。言葉の世界の面白さをお楽しみください。



☐ Dr. 川手 ミヤジェイエフスカ 恩（めぐみ） ☐  
(Megumi Kawate-Mierzejewska, Ed.D, Temple University)

【経歴】

テンブル大学ジャパン集中英語課程 助教授  
2000年より、ETS公認コンサルタントを務める。

専門：中間言語語用論 (Interlanguage Pragmatics)

第6回：‘Do you wanna join us?’ ~ ‘一緒に行きたい?’ それとも ‘一緒に行かない?’ ~



この'want'と言う表現は簡単なようで、ともすると誤解を招きやすいものであるようだ。日常生活においていろいろな文脈で使われるが、時によって、聞き手はどのように誤解するのだろうか。

先日、北米から来た友人たちと一緒に昼食を食べに行く相談がまとまり、「さて、じゃあみんなで行きましょう」という時、彼らのひとりがその場に居合わせた日本人の友人を"Do you wanna join us? (一緒に行かない?)"と誘った。その日本人といえば、ちょっと当惑したような表情で"Mmm, I don't have to go"と答えていた。誘ったほうは予想外の返答に戸惑ったらしく結局、"(沈黙) okay..."となったわけであるが。

その日本人の言い分を後で聞いてみると『「一緒に行きたい?」ってきかれたのでちょっと遠慮して「行かなくていいよ」って言ったんだけど「行きたくない」って言ったわけじゃないよ。「一緒に行かない?」っていうんなら別にこれといった用事もなかったし、行ったと思うよ。』というものであった。どうやら、日本語の「～したい」という言葉のもつ含みに固執して「一緒に来たいんなら来てもいいけど、どうする?」という具合に解釈してしまったらしい。



そう言えば、先日、友人が彼女の友人から"Do you want my old computer? (コンピュータ要らない?)"と聞かれた時、"You don't have to give it to me....."と答えていたのを覚えている。彼女の友人はコンピュータを新しく購入したので、今まで自分が使っていたのをあげようと思い「コンピュータ要らない?」と提供をしたわけであるが、どうやら友人は「コンピュータほしかったらあげてもいいけどほしい?」というふうに解釈して「別にもらわなくていいわ」と答えてしまったらしい。

以上、英語の'Do you want (to)...?'は、日本語の「～したい?、～がほしい?」という独特の含みを持つ表現とはちょっと異なるように思える。

川手 恩 テンプル大学ジャパン

今までの受験者インタビューは、TOEFLに何度かチャレンジされている方にインタビューしてきましたが、今回は新学期ということもあり、初めてTOEFLを受験する方にスポットをあてて4名にインタビューしてみました。高校生、大学生、社会人、管理職の方とそれぞれ立場も様々で、皆さんそれぞれの目標に向かって一生懸命に頑張っている様子でした。また受験した感想もそれぞれで、この4名が語ってくださったことが、是非ともこれから初めて受験されようと思われている方のご参考になればと思っております。今回はうち2名を取り上げてお伝えします。残りの2名の方へのインタビューは次号掲載予定です。皆様、ご協力ありがとうございました。(TOEFL事業部)

☒ 受験者データ ☒

氏名	年齢	性別	職業	将来の夢
匿名希望Aさん	18	男性	高校生	
匿名希望Bさん	19	女性	大学生	英語の先生
匿名希望Cさん	40	女性	マーチャンダイザー	現在ファッション業界で管理職として働いているが、転職を希望。そのために大学院へ行きたい。
匿名希望Dさん	28	男性	児童福祉関係	現在の仕事で得た知識も生かしつつ、留学し更にその分野を学びたい。

- 今回のTOEFL受験の理由は何ですか？

Aさん：アメリカの大学へ留学したいのが理由です。専攻までは決めていないが、大学はもう決めています。専攻に関しては入学後、いろいろ自分を試したいと思っています。

Bさん：大学の留学制度を使ってイギリスまたはアメリカに留学するためです。また将来英語を話せる英語の先生になりたいと思うので。

- 普段英語を使う頻度を教えてください。

Aさん：父親がアメリカ人なので、家庭ではほとんど英語で話します。リスニングは全く問題ないですが、ライティングが苦手です。

Bさん：大学の専攻が英語のため、英語は会話の授業週3回を含め授業で英語を使います。

- 事前にどのように準備しましたか？

Aさん：映画をよく見ます。会話が中心なので、生の英語ということで非常にためになります。

Bさん：大学で1ヶ月TOEFL準備クラスがあったので、そこで配布された教材を使ってセクション別の攻略方法などを勉強しました。

- 受験してみた感想はいかがですか？

Aさん：テストセンターについての感想は、環境は非常に良かったです。隣の人が気になることもなく快適でした。各セクションに関しては、特にライティングセクションの時間配分に困りました。考える時間と実際にタイプする時間のバランスに今回は失敗してしまったと思います。時間表示を見ると落ち着かなくなり焦ってしまいました。スコアの表示範囲(\*)がかなり広いのにちょっとびっくりしました。ただ自分では表示範囲の下の方の点数に近いかなという印象です。

(\*)スコア表示範囲-TOEFLスコアはWriting以外は試験終了と同時に但ますが、Writing部分はその場で採点されないため、トータルスコアがWritingのスコアが入った場合想定されるスコアの範囲で示されます。

Bさん：まだ勉強不足と感じました。Listeningは単語がわからないと全体がわからなかったです。Readingは大学のTOEFL準備クラスでスキミングを習いましたが、実際のテストではそれをうまく生かせなかったです。Writingは頭で考えたものをすぐに書いたのですが、配布された下書き用紙に予め下書きすれば良かったと思いました。

- 今後も受験してみたいと思いますか？また、今回の経験から今後どのように準備していったら良いと思いましたか？

Aさん：はい。実際、アメリカに留学するのは来年以降なので、受験計画を立ててこれからも受けていく予定です。

Bさん：はい。留学する、しないに関わらず、自分の英語力を伸ばすための目標とするために今後も受験したいです。大学のTOEFL準備クラスで使った教材でもう一度勉強しなおします。

- 他の英語試験を受験したことはありますか？あれば他の試験と比べてどうですか？

Bさん：英検を受験したことがありますが、TOEFLは単語力が無いとダメだと思いました。

- 最後に2005年からスピーキングセクションの導入について知っていますか？またもし受けなければならない場合どのように準備しようと思いますか？

Bさん：知らなかったです。学校の授業で足りない分を会話学校で補いたいですね。

- どうもありがとうございました。

(インタビュー：TOEFL事業部 瀬高聡子)

~ 大学・高等学校からの事例発表を含め、教育者レベルでの英語教育に関する情報交換の場として！ ~  
(参加費無料)

このセミナーは、既に終了しております。

昨年12月に好評を博したTOEFL®研究セミナーを京都・福岡でも開催することになりました。

この機会を是非お見逃しなく!!

~ アカデミック・ライティングや英語伝達能力育成に向けての効果的な学習方法とその指導方法 ~

講師：川手 ミヤジェイエフスカ 恩 (めぐみ)  
(Megumi Kawate-Mierzejewska, Ed.D, Temple University Japan)



【講師ご紹介】

テンプル大学集中英語課程 助教授  
2000年より、ETS公認コンサルタントを務める。

専門：中間言語語用論 (Interlanguage Pragmatics)

このセミナーでは、2000年から2004年にかけてのTOEFLの動向に沿って21世紀における英語教育のあり方を考えます。特にアカデミック・ライティングや英語伝達能力育成に向けての効果的な学習方法とその指導方法を探ってみます。また、コミュニカティブな英語能力を正しく測定しようという試みによって2004年度から始まる予定の新世代TOEFLに向けての効果的な学習指導方法等もETSの開発したプログラムとともにご紹介します。

【セミナー開催スケジュール】

京都：(同志社大学 共催)

日時： 2003年5月31日(土) 14:00 16:00

場所： 同志社大学 今出川キャンパス 神学館地下2階(G2)

定員： 150名様(先着順)

福岡：(福岡県国際交流センター 共催)

日時： 2003年4月25日(金) 18:00-19:30

場所： 福岡県国際交流センター こくさいひろば 交流室A

## 【セミナー - 内容】

1. 2000年から2004年にかけてのTOEFLの動向
2. TOEFLエッセイの採点基準
3. アカデミック・ライティング
  1. アカデミック・ライティング指導における重要点
    1. 文や段落だけでなくエッセイ全体の構成
    2. 組み立て：線状の（西洋的な）アイデアの習得
    3. 内容：アイデアの発展、それをサポートする具体例
    4. まとまりのある文章：主題のある文章。つながりや文の流れのしっかりした文や表現
  2. アカデミック・ライティングの指導方法
  3. 書きはじめる前段階のスキル練習
    1. マッピング：アイデアの方向性を示す「地図」の作成
    2. クラスタリング：共通性のあるアイデアをまとめあげる
  4. Expository Essayを例にとり
    1. さまざまなトピックの紹介
    2. エッセイの構成方法とアウトライン
    3. それぞれの段落の書き方
    4. エッセイに一貫性を持たせるための工夫（coherence devices）
    5. 段落レベルと文章レベルでの様々な転換語(transitions)の使い方
  5. 評価と分析（1）
    1. 的を射たものが書けているか
    2. 長所と短所はどこか
    3. どこがぼやけているか、そしてそれはなぜか
    4. どうすればよりよいエッセイになるか
  6. 評価と分析（2）
    1. 学生によって書かれた実際のエッセイの分析
    2. よいエッセイとは
4. e-raterを使ったアカデミック・ライティングの指導方法
5. コミュニカティブな英語能力測定と新世代TOEFL
6. 英語伝達能力育成に向けての効果的な学習方法とその指導方法
7. 21世紀に望まれる英語教育のあり方（おしまいに）

TOEFL®-CBTセミナー  
～ コンピュータ版TOEFL®を初めて受験する方、必見！～

当事業部では、国際標準の英語能力評価試験であるTOEFLの日本事務局として、コンピュータ版TOEFL (TOEFL-CBT) について分かりやすくご説明するセミナーを無料で開催しております。(東京：毎月1回、関西：隔月1回予定)



ご好評頂いているこのセミナーでは、ETS公認コンサルタントが試験対策とともにコンピュータ版試験の説明をいたします。質疑応答の時間もございますので、不安を取り除いて本番試験に望めます!!セミナーに参加いただいた方にはTOEFL CD-Sampler(定価\$ 18：サンプル問題67題含む)も無料で配布しております。

世界に飛躍するために今後TOEFLを受験されるご予約の皆様はもちろんのこと、コンピュータ版TOEFLにご興味のある方はどなたでも参加できます。今後の準備に是非お役立て下さい。

このセミナーは、既に終了しております。

【セミナー開催スケジュール】

東京：

日時：	2003年4月21日(月)	18:30	20:30
	2003年5月19日(月)	18:30	20:30
	2003年6月16日(月)	18:30	20:30
場所：	東京ウィメンズプラザ 視聴覚室		
定員：	150名様(先着順)		

関西：

日時：	2003年5月31日(土)	11:00-12:30
場所：	同志社大学 新町校舎 尋真館21番教室(Z21)	

関西におけるTOEFL-CBTセミナーは、隔月開催を予定しております。